

船橋 よみうり

船橋・習志野・鎌ヶ谷

2019年(令和元年)

8/3 No.1250 (sat)

(株)船橋よみうり新聞社

【発行日】毎週土曜日(第5土曜除く)

【発行エリア】船橋市・習志野市・鎌ヶ谷市
および白井市・千葉市の一部

【HP】<http://www.funayomi.com>

TEL047-424-5534 FAX047-425-0373

〒273-0002 船橋市東船橋1-29-15



風に揺れるムクゲ

梅雨が明けた。関東甲信の梅雨明けは平年より8日遅く、昨年より1カ月遅い。行田公園ではムクゲの花が複数開花し、風に揺れている。園内にある円形の催し物広場の前に100本ほど、花の咲く樹木を増やそうと、市民らが毎年植えてきた。

「フヨウ」の花と似ているが、葉の形で見分けられる。手のひら状に浅い切れ込みのフヨウに対し、ムクゲの葉は小さく、葉縁は荒いギザギザ。

(先月31日撮影)

16年後、船橋の街は 東邦大生が「未来地図」作成

船橋市内の将来の人口分布や緑地面積をシミュレーションした「船橋の立体未来地図」を東邦大学の学生らが作成した。市から提供を受けた土地利用データなどを基に、船橋の街の過去20年の変化と、2035年までの予測を立体の白地図にプロジェクトで映し出すもの。きょう3日と4日に開かれるオープンキャンパスで一般公開する。



市内の人口分布 二極化

同大理学部生命圏環境科学科の学生らによるプロジェクト。行政計画や環境問題を研究する同学科の柴田裕希准教授(38)は「行政や企業の意思決定は、自然環境や人間社会に影響をもたらず。若者も含めて長期的な視点で見なければならぬ」と話す。映像で地図に映し出すことで街の変化を直感的に理解できる。「私たちが市の政策についての分析を通じて将来を予測し、市民にとって街づくりの判断材料になれば」とプロジェクトの狙いを話す。

映像は約3分間。まずは市内35万区画の土地利用を洗い出し、最新の統計解析とモデルシミュレーションを使用した。海外では街づくりによく取り入れられる手法という。

船橋市の人口は25年を境に減少に転じる見込み。同プロジェクトによる予測では、船橋駅や新船橋駅周辺、前原駅や薬園台駅周辺に人が集まる一方で、北部地域は人口減少が進み、市内で二極化が進む。

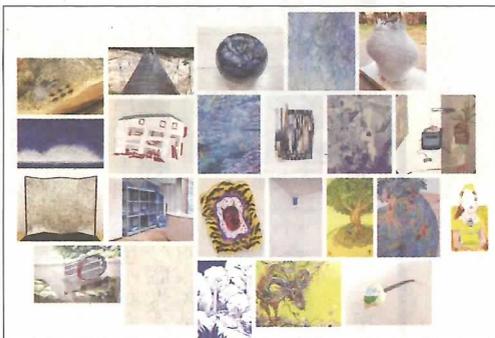
市内の緑地は過去20年間で宅地化などによって8%減少したが、市が進める「コンパクトシティ政策」が成功した場合は、35年には市全体の緑地面積が現在に比べ0.4%ほど増加する可能性がある。これに伴い、緑地の持つ機能である空気中の汚染物質を取り除くなどの調整サービスが増加する一方、人口分布の変化に伴って公園緑地の利便性などの文化的サービスはわずかながら低下する可能性もあるとしている。

6月の環境フェアで模型をプレ公開したところ、来場者のさまざまなか考えを聞くことがで

き、議論の必要性も感じたと、学生らは話す。プロジェクト代表の福村龍星さん(19)は「今後も改良を重ねる」という。伊藤夏生さん(25)は「船橋市では過去に例のない長期間を対象とした大規模な土地利用情報の分析になった。街づくりを考えるきっかけになれば」と話した。

各日10時～15時公開

写真は参考作品



23人のアート展 「アラカルト」

船橋市民ギャラリーで、6月18日にふなばし現代アート展「アラカルト」が開催される。

船橋出身、在住の作家などプロとして活躍する20代・30代の23人による展覧会。厳しい世界に身を置くが展示する機会にあまり恵まれていない作家を紹介したい」と隔年で開かれ、今年で7回目を迎える。

阪神甲子園球場(兵庫県)で行われる全国高校野球選手権への出場を決めた習志野高野球部の選手ら25人(写真)が先月29日、習志野市役所を訪れ、大舞台への意気込みを語った。

竹縄俊希主将(3年)は「3年生にとっては最後の大会になるので悔いの残らないように精一杯頑張つてきたい」と活躍を誓った。小林徹監督は「熱い応援に後押しされ、普段の練習以上の力を出すことができるのがうちの野球の強み。皆さんの期待に応えるべく、選手たちは頑張つてくれると確信している」と呼び掛けた。

大会は6日に開幕する。2111回ギャラリー

実行委員で船橋市在住の瓜生剛さん(38)は「気に入る作家を見つけて成長を追ってみたい。見る人と共感したい。会場おしゃべりしましょう」と来場を呼び掛ける。18日14時からギャラリートーク。展覧会は10時～19時(最終日は16時)。無料。TEL(420)2111回ギャラリー